

# カワサキノコト



## Colors, Future!

いろいろって、未来。

多様性は、あたたかさ。多様性は、可能性。

川崎は、1色ではありません。

あかるく。あざやかに。重なり合う。

明日は、何色の川崎と出会おう。

次の100年へ向けて。

あたらしい川崎を生み出していこう。



川崎市

川崎市ホームページ



川崎市 検索

川崎市  
LINE公式アカウント  
市の重要な情報を  
LINEでお届けします



@kawasakicity 検索

川崎市  
シティプロモーションTwitter  
川崎が好きな情報が満載です



@kawasaki\_pr 検索

カワサキノコト 川崎市市勢要覧2022

2022(令和4)年4月発行

発行：川崎市総務企画局シティプロモーション推進室 〒210-8577 川崎市川崎区宮本町1番地 TEL044-200-2287 FAX044-200-3915

制作：株式会社タウンニュース社 川崎支社 〒211-0042 川崎市中原区下新城3丁目14番7号 TEL044-741-4111 FAX044-741-4002



川崎市総合計画

## 表紙のアートについて 「KAWASAKI MURAL ART PROJECT」

川崎市役所本庁舎整備工事現場(川崎区)の仮囲いを、5人のアーティスト(DRAGON76氏、COOK氏、Kensuke Takahashi氏、Tokio Aoyama氏、WOOD氏)がミューラルアートで彩りました。全長56mにわたるこの作品は、「江戸を中心としたアート文化」と「若者文化」を融合させたもの。川崎市は、このようなストリートカルチャーをはじめとした若者文化を積極的に発信しています。

※ミューラルアート…施設所有者の許可を得た上でアーティストが壁面にスプレー缶などでカラフルに描く作品

## 04 Opening

## 06 特集 Light UP!!! KAWASAKI

～共鳴する鼓動～

- 06 宮澤 夕貴 富士通レッドウェーブ 選手
- 08 スポーツがまちに溶け込み、市民の誇りに「地域との関わり」座談会  
若松 慧 川崎フロンターレタウンコミュニケーション事業部  
内藤 誠人 川崎ブレイブサンダース 地域振興・アカデミー事業部  
重田 知穂 NECレッドロケッツ 広報
- 10 佐川 昌広 市立平間小学校 校長
- 11 ペレーラ ラヒル サンケータ 第13期川崎市外国人市民代表者会議 委員長
- 12 加藤 梨里香 俳優
- 13 中野 紳斗 かわさき若者会議 発起人

## 14 市長対談 ストリートカルチャーから見えてくる川崎の可能性

川崎市長 俳優  
福田 紀彦 × 松本 利夫 (EXILE)

## 18 NEW KAWASAKI+INNOVATION

世界が近づく川崎 未来を創る川崎

- 18 世界と川崎をつなぐ多摩川スカイブリッジ
- 19 国内初稼働の量子コンピューター

## 20 市の魅力 区民が選ぶ「好きなスポット」「ソウルフード」を電車の路線図とともに紹介 かわさきソウルトレイン

- |        |        |
|--------|--------|
| 21 川崎区 | 25 宮前区 |
| 22 幸区  | 26 多摩区 |
| 23 中原区 | 27 麻生区 |
| 24 高津区 |        |

## 川崎市市勢要覧 2022

- 28 川崎市総合計画
- 34 データで見る 川崎ってどんなまち?
- 38 歴史で見る川崎市
- 40 名誉市民・市民文化大使など
- 41 川崎市議会・市民オンブズマン制度など
- 42 川崎市歌・川崎市民の歌など

本誌掲載の記事、写真、イラストの無断転載、複製、使用を禁じます。  
本誌掲載の写真は、撮影のため一時的にマスクを外していたものもあります。

# ひとが動き、まちが輝く。 Light Up!!! KAWASAKI

1924年に、人口5万人弱で産声を上げた川崎市。  
市制100周年を2年後に迎える今では、  
政令指定都市として6番目の人口を擁する大都市へと成長しました。

工場群の小さな光の一つ一つのように、一人一人が鼓動し続け、  
それらの鼓動が発する光は互いを照らし合い、共鳴し合います。  
そして共鳴はこれまでも、これからも続き、  
まるで工場群を太陽の光が包み込むように、まちは一層輝きを増します。  
次の100年に向けて、「あたらしい川崎」を生み出していく  
新たなスタートラインに向かう今、「カワサキノコト2022」では  
さまざまな分野で活躍する人々を紹介します。  
ぜひ、鼓動の共鳴を感じてください。

# Light Up!!! KAWASAKI

～共鳴する鼓動～

特集



銀メダルを片手にオンラインでの取材に応じる宮澤選手。次に目指すのは、もちろん「金メダル」だ

川崎市を拠点とする富士通レッドウェーブの宮澤夕貴選手が、東京2020オリンピック競技大会で、同チーム所属の町田瑠唯選手、オコエ桃仁花選手とともに、5人制女子日本代表として日本バスケットボール史上初の銀メダル獲得に貢献したのは記憶に新しいところ。活躍を支えている原動力、その先の目標などについて語ってもらいました。

東京2020大会を振り返って、最初にでてきたのは感謝の言葉でした。「コロナ禍の中で試合を」やってもいいののか」という気持ちは、ずっとありました。それでも結果を出せたのは、無観客の開催でも、SNSなどでたくさんの方の応援メッセージの声を頂いたことが大きかったと思います。川崎市民の方々の声も大きな支えになりました」

普段は、東京2020大会でも光ったシュート力を武器にレッドウェーブの中心選手として活躍中です。国内屈指の強さを誇る所属チームについて、「1対1で相手を抜くのが上手な選手だけが集まっても強くはなりません。シュートが得意な選手やパスが上手な選手。いろんな特徴の選手が集まっているのが私たちの強み」と分析。常に、チームの最善のために「仲間の特徴を生かすことが大事」と心掛けてプレーする姿勢が、どんな舞台でも活躍できる要因になっているのでしょうか。

また、レッドウェーブでは、地域の皆さん

のためにさまざまな活動をしています。ホームゲームを多く開催する「どろろきアリーナ」や練習場のある中原区内などを回り、商店街に応援ポスターを張ってもらう活動もその一つ。「以前に所属したチームでは一度もなかった経験でした。まるで「頑張ってる」と声をかけてくださるなど、地元ファンが多いのは、こういう活動も理由の一つだと思います」

さらには、定期的に開催しているバスケットボール教室を通じた、川崎の子どもたちとの触れ合いも大きな原動力に。「リーグ戦で気持ちの浮き沈みがあっても、バスケットを始め

た時の楽しさを思い出して、また頑張ろうと思えるようになるんです。逆に、調子が良いときは「初心を忘れないように」と思わせてくれます。ただ忙しすぎて、(教室を)やって良かったと思っただけばかり。私にとっては、プラスでしかありません」

今や、チームの顔ともいえる存在の宮澤選手ですが、2021年に移籍してきたばかりです。川崎のまちはどんな印象なのでしょうか。

「いろいろな競技のスポーツチームがあり、応援のポスターも見かけ、スポーツが盛んなまちだと思っています。スポーツの盛んな地域は活気があるように感じます。試合後に「勇気をもらえた」「自分も頑張る」というような声を頂くこともあります。スポーツには人の気持ちを前向きにする力や、生き方を豊かにする力もあるのではないのでしょうか。休日に地元チームの試合に足を運べば、そこには人との関わりが生まれます。さらに選手が活躍することで、「あんなふうになりたい」と夢を持つ子どもも増えるように思います」

宮澤選手には、試合でのさらなる活躍やタイトル獲得など、さまざまな目標がある中、こんなことも夢の一つだそうです。「近い将来、「レッドウェーブの試合を見たいから川崎市に行きたい、住みたい」と言ってもらえるような魅力ある存在になれば夢のようです」

## 宮澤 夕貴

富士通レッドウェーブ 選手



”  
気持ちを前向きに、  
生き方を豊かに。  
それがスポーツの力  
“

Profile

みやざわ・ゆき：神奈川県立金沢総合高校卒業後、EN EOSサンフワーズに入団。2021年に富士通レッドウェーブに移籍した。東京2020大会で挙げた得点は、チームで2番目となる計69得点。町田選手、オコエ選手とともに、川崎市スポーツ特別賞を受賞した



# ”スポーツが

# まちに溶け込み、

# 市民の誇りに

# 「地域との関わり」座談会

## 若松 慧

川崎フロンターレ  
タウンコミュニケーション事業部

わかまつ・けい：主に地域イベントの企画立案、地域のホームタウン活動などを手掛ける

## 内藤 誠人

川崎プレブサンダース  
地域振興・アカデミー事業部

ないとう・まこと：アカデミー事業も積極的に展開し、バスケット教室などへの参加人数を伸ばしている

## 重田 知穂

NECレッドロケッツ  
広報

しげた・ちほ：2021年に広報に兼任。地域との窓口となり、活動に取り組んでいる

川崎フロンターレ(以下、川崎F)サッカー、川崎プレブサンダース(以下、川崎B)バスケットボール、NECレッドロケッツ(以下、NEC)バレーボール)は、いずれも川崎市を本拠地とし、地域貢献活動に積極的に取り組んでいるスポーツチームです。各チームから3氏がオンラインで集い、座談会を行いました。地域に密着することの意義とは？ スポーツが持つ特別な力とは？

**重田(NEC)** フロンターレさんもプレブサンダースさんも川崎市の顔ともいえる存在ですので、レッドロケッツも参加できてうれしいです。

**内藤(川崎B)** こういう企画が成立するのは、フロンターレさんがこれまで築いてきた結果があるからこそです。市内全小学校にオリジナル教材の「フロンターレ算数ドリ

ル」を配布したり、「こうやって思いつくだろう?」と思わせるような企画力・突破力、「やりすぎ」と思えるほど突っ込んでいくフロンティアスピリットは、常に尊敬しています。最近では、「みやまこ近助体操」の企画に驚かされました。高齢者も親しめる体操という、世代を問わない動画コンテンツを提供するアイデアがすごいです。

**若松(川崎F)** そんな、滅相もないです。「みやまこ近助体操」は、サッカーに関心のない方も広く交流するきっかけになれば、と宮前区で始めました。「クラブをまちに溶け込ませるにはスポーツ以外でも、いろんな融合があるんじゃないか」と常にアンテナを張り続けています。僕も、2チームには刺激をもらっていて、レッドロケッツさんは、チームを応援するために商店街などに掲げられるタペストリーの数がここ数年ですごく増えま

したよね。  
**重田(NEC)** 一つ一つ商店街に連絡して取り付けさせてもらいました。快く場所をご提供いただけるのでありがたいです。もともと地域に溶け込んでいかなきゃと考え、選手・スタッフ一同が、商店街の清掃活動をさせてもらったりもしています。そうやって、地域に必要な存在になってこそ、選手も地元の人たちもお互いを身近に感じて応援していただけるようになり、選手も力をもらえるんだと思います。

### 育成・普及活動の狙い

**若松(川崎F)** 実は、川崎の皆さんに愛されるという意味で、すごくうれしいことがあります。うちのアカデミーからは、今は海外で活躍している市内出身の選手が何人か出ていますが、彼らの応援タペストリーが今でも、

まちの中に掲げられているのを目にしたんです。アカデミーでは、そうやって地元で応援してもらえようとするような教育もしています。子どもたちが夢の舞台を目指し、地元の人々がそれを応援するような輪が広がるのもスポーツならではの良さですね。

**内藤(川崎B)** スポーツ教室やアカデミー活動は競技の普及が基本ですが、おっしゃるように、もっと大きな意義がありますよね。

**重田(NEC)** 私たちの場合、バレーボールは競技自体が生涯スポーツという特徴がありますので、小学校のふれあいスポーツ教室で選手が子どもたちと交流したり、ママさんバレーの教室を開き、コーチと一緒にバレーボールをしたりと、幅広い世代との関わりを持ちたいと考えています。

**内藤(川崎B)** アカデミーなどの活動には、地域課題の解決という側面もあると思います。子どもたちに運動をきっかけを提供し、運動習慣を身に付けてもらうことで体力が向上したり、将来的には健康寿命が延びたりすることにもつながりますから。

### スポーツが持つ力

**若松(川崎F)** 「将来」という視点でいえば、以前からクラブのボランティアとして活動していた高校生が異年の大学に進学し、成人式で帰省したとき、わざわざ成人式前日にフロンターレのイベントのボランティアに参加してくれたことがありました。「久々に帰ったから(サポーターの)みんなと会いたい」とサポーター同士がつながり、居心地のいい場

所になる。スポーツには、目の前の試合で喜んでもらうだけではなく、故郷のような存在にもなれる力があるんだと実感しました。

**重田(NEC)** うらやましい話ですね。内藤さんがスポーツの力を感じた話も聞きたいです。

**内藤(川崎B)** SDGsが理念の「&ONE(アンド・ワン)」というプロジェクトの中で、家庭から出た使用済み食用油を回収して、環境負荷の低いバイオ燃料の原料にするプロジェクトをやったことがあって。わざわざペットボトルに詰めて試合会場に持ってくるのは手間になることなのに、ファンの方は、たくさん持ってきてくださったんです。スポーツチームが旗振り役になることで「ついに」くらしい感覚で、楽しみながら社会貢

献活動に参加してもらえるのも、スポーツの力です。重田さんの場合はどうですか？

**重田(NEC)** 私は、コロナ禍の中で、特に強く感じました。(スポーツイベントの収容率などの制限が解除)試合が再開され、待ちわびていたファンの方が楽しそうに観戦し、声を出さない中でもハリセンを叩いて盛り上げてくれる姿を見るとき、スポーツが地域に求められているんだと実感しました。

### 川崎市民と歩む将来像

**内藤(川崎B)** そうやって、地域の皆さんに求められることって大切ですよ。NECでは、障害のある方にホームゲーム運営を職業訓練の場として活用してもらったり、試合のショータイムで一芸に秀でた市民を招いてダンスや一輪車などのパフォーマンスを披露してもらったり、子どもたちが安心して過ごして気軽にバスケットボールに触れられる「ザ・ライトハウス」という施設を武蔵小杉駅近くオープンしたりもしました。今後も、地域からうまく活用してもらえようという関係性を築き続けたいです。

**若松(川崎F)** 私たちも、スポーツやチーム・クラブが溶け込んだ地域の日常を、川崎の皆さんが誇りに思ってもらえるような活動を継続していきたいです。

**重田(NEC)** よく、川崎市はスポーツチームが多いと聞きますが、みんなが刺激し合っていて、チームも川崎のまちも盛り上げていきたいですね。



川崎フロンターレ：「フロンターレ算数ドリル」を使った授業



川崎プレブサンダース：試合やハーフタイムの時間は市民の活躍の場に



NECレッドロケッツ：選手、スタッフが参加した地域清掃



SDGs教育の一環として、「平間SDGsフェス」で行われた、太陽光で目玉焼きを作る講座の様子

地域を巻き込んだ啓発活動が評価され、市立平間小学校（中原区）は、2020年に政府の「第4回ジャパンSDGsアワードSDGsパートナーシップ賞」を受賞しました。同校の佐川昌広校長こそ、SDGsを前面に打ち出す学校運営の仕掛け人です。※SDGsについては28ページ参照

「今日はSDGs17番のクイズです」。同校では、放送委員の児童による校内放送で一日が始まります。校長室前には多摩川の水生き物を飼育する「SDGs水族館」があり、

渡り廊下には17の目標と169のターゲットが掲示され、校内はさながらSDGs資料館のよう。SDGs未来都市に認定されている川崎市の中でも注目を集めています。SDGsに取り組み始めたのは、2018年のことでした。「ローカルな活動がグローバルにつながるをグロウアップを学ぶのに最適」。こう考えた佐川校長は、「まずは自分の行動から、朝礼のスピーチや学校だよりなどで積極的に発信し続けます。コロナ禍



子どもの本気が大人を動かす

Profile さがわ まさひろ：大学卒業後に九州から北海道まで徒歩での縦断旅をする中で出会った人に感服され就職に。企業への派遣研修などを通して、環境問題や自然エネルギー問題に関心を高める。2018年度から市立平間小学校の校長（2022年3月末時点）

## 佐川 昌広

市立平間小学校 校長

による学校の臨時休業明けでした。臨時休業になる際、「自分でできるSDGsを家族と調べて、校長室の壁に貼ろう」と児童全員へ宿題を出したところ、臨時休業明けには「給食を残さない」「地域の人にあいさつをする」などと書かれた付箋が壁一面に「伝え続けると児童もだんだんと変わる」と感じた佐川校長は取り組みを加速。今では全学年でSDGsに開く授業をしています。中でも、2019年から始まった「平間SDGsフェス」は、校庭に群生する竹を使った竹炭作りや太陽光での目玉焼きの作り方講座など、地元が市民活動団体や地域の大人も一緒に盛り上げる「一大イベント」に「子ども本気に感服された大人が本気で動くこと、思いは地域に広がっていきます」佐川校長は最近、SDGsの広がりを実感したエピソードに目を細めます。「公園でゴミをポイ捨てしようとした人に、近隣住民の方が「ポイ捨てしちゃだめ。SDGsを知ってる」とSDGsを持ち出して注意したそうです。他にも、児童同士で「それはSDGsの17番に反するんじゃない？」なんて言い争いでもあったんです」

川崎市外国人市民代表者会議は、市内在住の外国籍の市民が地域課題について話し合い、市長に提言を行っています。「要求から参加へ」をモットーに掲げるのは、委員長のペレ－ラ・ラヒル・サンケーターさんです。

2021年12月末時点で市内には、139の国や地域にルーツを持つ4万3854人が生活しています。こうした市民の声を市政に生かすべく、同会議は1996年に設立。公募で選ばれた委員が、防災や医療、教育といった、地域で生活する中で感じている問題について議論を重ね、その結果を年次報告書にまとめ、市長に提言しています。

第13期（任期2020～2021年度）の委員は、19の国や地域出身の26人。「国や文化が異なる人が集まって話す、それまで見えていなかったいろいろな視点に気がきます。委員長としていろんな声を引き出した」と意気込むペレ－ラさんにとって、会議のキーワードである「要求から参加へ」とは、



川崎市のブランドメッセージのロゴマークに思い思いの色を塗り、多様性を表現する委員の皆さん。前列左から3番目がペレ－ラさん

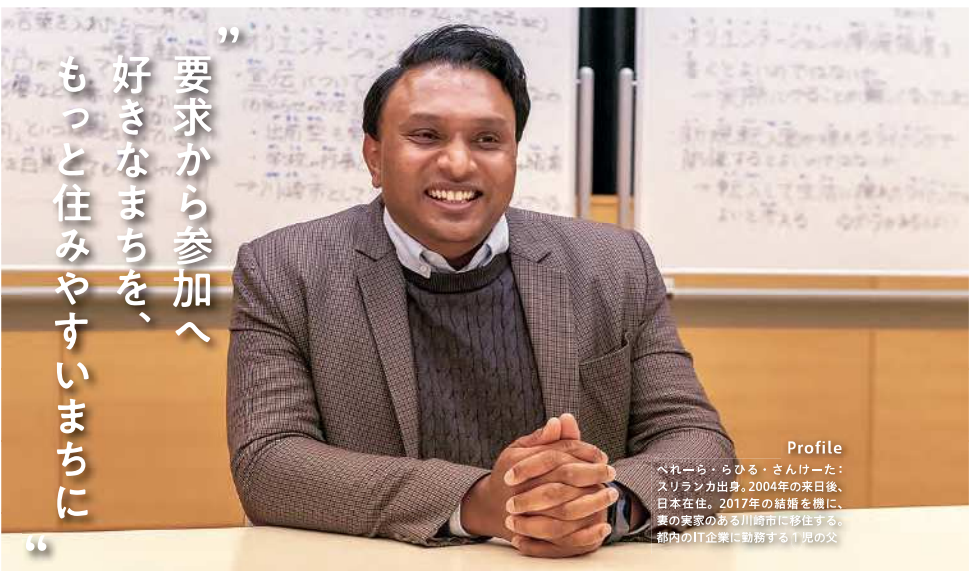
## ペレ－ラ ラヒル サンケーター

第13期川崎市外国人市民代表者会議 委員長

「どうしてかなのでしょか。」「行政などに「やって、やって」と言うだけではなく、可能な限りできる範囲は自分たちでやることで、うまくいったケースが何度もありました。」「要求」も「参加」も仕事でよく使う日本語ですが、これだけ意味が違うのかと、この会議での活動を通して実感しました」例えば、「行政手続きで使う資料の多言語化で、メンバーが翻訳できるものは自分たちでやって、それを市に活用してもらった」経験などは、その典型だそうです。そんなふうには、「参加」の部分も提案することが大事だと思っています」

ペレ－ラさんが同会議の活動に熱心に取り組み始めたのは、川崎市に愛着と大きな可能性を感じているからにはかなりません。川崎市と、それまでに日本で住んできた所の違いは、人の温かさでした。川崎では外国人であっても、地域の人が積極的に「おはよう」と声を掛けてくれるんです」

そんな時に届いたのが、同会議への応募案内でした。「川崎市には外国人の声を生かそうとする、他のまちにはない仕組みがあるんだ」と喜んだペレ－ラさんは、「そういう会議があるということには、このまちの人が、いろんな声を聞く思いを持っているから。好きになっちゃおう、もっと住みやすいまちにするチャンス」と応募し、その後委員長にも立候補。「私たちがしっかりと「参加」をすれば、日本人も外国人も含めた、全ての人のため、もっと暮らしやすい川崎になるはず」と、川崎の未来の姿を見据えています。



Profile

ペレ－ラ・らひる・さんけーた：スリランカ出身。2004年の来日後、日本在住。2017年の結婚を機に、妻の実家のある川崎市に移住する。都内のIT企業に勤務する1児の父

要求から参加へ  
好きなまちを、  
もっと住みやすいまちに

# 100年後も 都会の中の田舎でいて



### Profile

かとう・りりか：2歳で芸能界に入り、4歳で初舞台を経験。2016年、『花より男子 The Musical』のヒロイン役に応募総数3,000人の中から選ばれた。梨農家で育ち、写真共有アプリ「Instagram」 (@ririka\_kato )では、「川崎の農」の魅力なども発信している

高津区出身の加藤梨里香さんは、圧倒的な存在感、抜群の演技力で大きな注目を集めている舞台俳優です。ミュージカルを中心に、名だたる作品で華やかなスポットライトを浴びる活躍の背景には、地元への深い感謝の気持ちと愛情があるようです。

2021年、憧れだったミュージカルの金字塔「レ・ミゼラブル」のヒロイン・コゼット役を演じました。3度目のオーディションでついに射止めた大役。胸に込み上げたのは、「家族や地元の友達、先生、ご近所さんが応援してくてくれたおかげ」という感謝の気持ちでした。

それほど、地元への愛情は深いようです。曾祖母と祖母の勧めで子役デビューしたのは2歳の時。「梨里香ちゃん、今年のお祭りも期待しているよ」と町内会の人に背中を押され、神社の境内に設置された舞台上で大好きな歌やダンスを披露していた幼少時代を、「あそこで度胸を鍛えられたのかな。当時、応援してくださった方の中には、今も公演に足を運んで応援してくださる方もいます」と、懐かしそうに振り返ります。

小学生になってからは、撮影や舞台で授業を抜けることもしばしば。仕事場で会う同世代の子役の中には、「普通」とは異なる生活スタイルが周囲に快く思われないことに悩む人もいた中、芸能活動をする上で今でも大きなエネルギーになっている言葉を友達から掛けられました。「小学校の芸術鑑賞会で劇団



大好きな梨を、地方公演中に実家から送ってもらったことも

## 加藤 梨里香 俳優

四季の公演を見たとき、友達が「これが梨里香ちゃんの仕事なんだね」と言っていて、私のことを受け止めてくれました。私の地元には「何かを目指している人を、みんなで応援する」という雰囲気があって、とてもありがたいです。川崎の方は、みんな温かいですよね」公演や稽古で全国を飛び回るようになった今、大舞台に立つ重圧を和らげてくれるのも「地元」の存在です。「都会の便利さの中にある、自然の豊かさが大好きです。実家で栽培している梨は甘みが強く、地元の養鶏場の卵は黄身の新鮮さが全然違います。取れたてのおいしいものがすぐ手に入る環境はとてもありがたいので、体にはいいのはもちろん、心の栄養にもなっています」

2021年には、文化・芸術分野で今後の活躍が特に期待される個人や団体に贈られる、川崎市のアゼリア種賞を受賞し、地元への思いは深まるばかり。「育ててくれたたちがあるから、きっと今の私があります。100年後も、みんなが温かくて、都会の中にも田舎がある」。そんな川崎がずっと続いていてほしいです」

2021年4月、中野絢斗さんが発起人になり、地域と若者をつなぐ組織として「かわさき若者会議」が発足しました。自治体や商店街の依頼で企画する若者らしいイベントの斬新さが好評で、地域交流の輪を広げる役割を果たしています。

「うちの村ではスイカが取れるぞ。お前の故郷はどこなのさ？」

中野さんが、大学時代にバックパッカーとしてユーラシア大陸を横断中に会った人々から感じたのは、「プチ自慢」に込められた地元愛でした。「いざ自分のことを見つめると、地元のことは何も知らず、恥ずかしかったです」

この経験から、帰国後に地元をよく知ろうと、「何でもいいから、地元で何かに取り組んでいる団体はないだろうか」と探し始めます。「高津区で緑の保全に励むグループを見つけた。メンバーは年の離れたシニアの方ばかりでしたが、歓迎され、ミカンが自生していることやホテルが息することなど、目からうろこ。な高津区の情報を教わりました。逆にSNSの使い方を教えると喜ばれ、多世代交流の楽しさも知りました」

この経験を機に、「きっと、僕のように地元を知らないまま住んでいる若者は多い」地元居場所がない、そんな思いを持った若者を巻き込んで、多世代が交わるようにしたい「川崎在住なのに都内でいろいろと活動している若者を知ってるけど、それ、川崎で、もっと面白くできるの」といった思いが後押しし、川崎に縁ある若者約10人で、同

## 中野 絢斗

かわさき若者会議 発起人



## 若者会議の存在が 不要になる未来が理想です

会議は発足しました。同会議では、自由な発想で地域に参画するプロジェクトをこれまで100以上実施しています。特に印象深かったもの一つは、高津区役所から、「区の魅力を発信する企画を実施したい」と相談されたことでした。

「最初のアイデアはセミナーでした。でも、メンバーには高校生もいて、『そんな、ありきたりじゃつまらない』と、高津区の魅力に関する問題を解くことで密室から脱出するゲーム型のイベントをすることになったんです。会議に、いろんな立場の人、いろんな考

えの人がいるからこそ実現できたアイデアでしたね」

現在のメンバーは約100人。コーヒー職人や声優、留学生など多様で、自宅や学校、勤務先以外の第三の居場所として関わるメンバーも多く、さらに企画を通して連携した団体がメンバーをアルバイトとして受け入れるなど、深い結びつきも育まれています。

最後に、理想の地域像を聞くと、こんな答えが返ってきました。「若者会議のようなコミュニティがなくても、多世代が自然と交わり活動できる地域ですね」



問題を解くことで密室から脱出するゲーム型イベントは大成功に終わった

### Profile

なかの・けん：高津区出身。地域と若者をつなぐ組織「かわさき若者会議」の発起人のひとり。楽しみながら地域の多世代とつながる企画を多数実施している。同会議のルールは「25歳まで」くらいで、できるだけルールをなくすことがルール(中野さん)

市長対談

川崎市長

福田紀彦



俳優

松本利夫

(EXILE)



ストリートカルチャーから見えてくる

# 川崎の可能性

高津区出身の俳優でEXILE創設メンバーでもある松本利夫さんは、川崎市内のさまざまな場所を巡り、多彩な魅力を発信する動画企画「川崎利夫」を立ち上げ、その中で、「川崎愛」にあふれた内容を次々と発信しています。2021年12月に第10期川崎市市民文化大使に就任した松本さんと福田紀彦川崎市長が、川崎の魅力や可能性について語り合いました。

## 「川崎愛」から生まれた「川崎利夫」

**福田** お会いするのは、2カ月前の市民文化大使の就任記者会見以来ですね。

**松本** 記者会見後は、たくさんの方からお祝いの連絡が来ました。EXILEが(2003年に)NHK紅白歌合戦に初出場したときくらい反響が大きくて(笑)。「川崎利夫」の動画企画を配信し始めてから、まさか1年で市民文化大使になれるとは思いませんでした。

**福田** 松本利夫ではなく「川崎利夫」。この4文字に松本さんの「川崎愛」が凝縮されているなど。どんなきっかけで「川崎利夫」の動画企画を始めたんですか。

**松本** 海外に行って、生まれ育った地元文化について聞かれたとき、うまく答えられない自分にもどかしさを感じていました。そんな思いを持ちながら、年齢を重ねた母に会うために川崎に帰るたびに、「いまちだな」って言葉にならない安心感が湧くんです。ちょうど、所属事務所でも動画配信サービスがスタートしたこともあり、「もっと川崎を知りたい。川崎を自分で体感して、楽しんで、それを発信したい」と、始めることにしました。

**福田** 動画企画の最初の頃、市役所に来られて、「川崎観光大使になりたいです」って、おっしゃっていましたよね。

**松本** はい。直談判させていただきました(笑)。最初は怒られるかと思っていましたが、そのときに、「観光大使はないが、川崎市民文化大使はある」と教えていただき、「市民文化大使になりたい」と決意を改めて、その後の「川崎利夫」の動画企画を展開しました。活動を評価してくださって、市民文化大使にも任命して下さってうれしいです。

**福田** 動画では川崎の魅力をユニークに伝えてくださり本当にありがとうございます。改めて川崎を周られていかがですか。

**松本** 2021年だけでも、川崎大師に川崎競馬場、川崎競輪場、藤子・F・不二雄ミュージアム、よみうりランドなどに行きましたが、本当にいいところがたくさんあるなど。中でも岡本太郎美術館はすごかった！常設展示室の入り口にある真っ赤に塗られた壁の、巨大な「TARO」の文字が目に見え込んで、まず圧倒されました。

**福田** 松本さんもそうでしたか。岡本太郎美術館に影響を受けるアーティストの方って実に多いらしくて。

**松本** ものすごいエネルギーと圧倒的なアートで、椅子の一つ一つからも「命」を感じましたし、(作品を通して)メッセージがガンガン体に入ってきたんです。その年で一番の衝撃的な体験でしたね。

**福田** そうやって松本さんが表現力豊かに伝えてくださる姿を見ると、川崎に対する思いに感激しちゃって。僕も見習って、「川崎紀彦」にしないと(笑)。

**松本** ミュリアルアートを盛り上げるのって「すごいチャレンジ」

**松本** (窓の外を見ながら) このホテル縁



道から見えるミューラルアート(※1)、素晴らしいですね。

**福田** 私も、とても気に入っています。市役所本庁舎整備工事の仮囲いに描かれたものですが、2024年に工事が終わったらもったいないのが取り外す予定です。アーティストの人たちは、「壊されるまでの有限なところがいい」と言っていて、そういう見方もあるのかと感心しました。

**松本** スプレー缶などで壁にカラフルに描くのは、施設所有者などの許可がないとだめじゃないですか。それを、川崎市は許可を出していることが、すごいチャレンジですし、びっくりしました。絵自体はもちろん、市がストリートカルチャーを大事にしていることにも感動しました。こうした取り組みをする、川崎市の先頭に立っている福田市長自身はストリートカルチャーになじみがあったんですか。

**福田** 全然なかったですよ。2015年に川崎市に拠点を置くダンスチームがブレイン(※2)の世界大会で優勝したとの話を聞いたのが始まりで、いろんな人に聞くと、ストリートダンスやダブルダッチ(※3)、スケートボードといったストリートカルチャーを盛り上げていった、伝説の人たちが川崎にたくさんいるんですよ。市では、15年以上前から「音楽のまち・かわさき」として、駅前の上ライプなどの表現活動を一定のルールを設けて受け入れる素地があったので市内の若者文化の点と点をつなげて面にして、まち全体をストリートカルチャーが盛んなエリアにしていきたい

と。川崎市長自身はストリートカルチャーに

いと思っただけです。

**松本** 僕がダンスを始めた25年前くらいは、宮前区役所のガラス張りのエンターランスホールの前で振り付けの練習をしていました。スタジオを借りるお金もなかったの、ラジカセを持って行って、音量や入りを気にしながら、まじめに探究心を持って。ダンスが今ほど一般化していなかったの、ただ遊んでいるようにしか見えなかったかもしれないですが、親は「好きなことがあるんだったら頑張れ」と、広い心で受け止めてくれました。その点、今の川崎は、まち全体がストリートカルチャーを受け入れて、積極的に発信もしているの、今の子どもたちがうらやましいです。

**福田** 宮前区役所の同じ場所では、今も踊っている若者たちがいます。ダンスをしている人たちってやんちゃなかなと思っ

ていましたが、実際に会うと、礼儀正しい人ばかり。兄弟のように年上が年下の子に教える関係性は、すごくいいと感じます。**松本** そうですね。僕は市内のいろんな場所を踊っているうちに、どんどん知り合いが増えていきました。ただダンスが好きだった少年が、そうした出会いを重ね、つながりがたくさん生まれた結果、EXILEにつながりました。

※1：施設所有者の許可を得てアーティストが描く壁画アート。※2：楽曲に合わせてヘッドスピンなどアクロバティックな舞ダンススタイル。※3：2人が2本のロープを両手中を結び手がいろいろな技を交えて遊ぶスポーツ。

川崎は「文化のるつぼ」

**福田** つながりといえば、川崎は、すごく多文化なまちで、音楽やダンス、アートといった表現活動を受け止める力ってすごいじゃないですか。例えば誰かが新しいリズムで踊りだしたら、周りも拒否するのではなく、「どうぞ、どうぞ」と受け入れて、同じリズムで踊りだすイメージでしょうか。だから、川崎は「文化のるつぼ」のようなところがあると思うんです。若者のストリートカルチャーというものが、そういう川崎の人とまちの姿を象徴しているように見えるんです。そうやって文化が成熟してきて、川崎に若者が集まるようになってきています。**松本** 「川崎にストリートカルチャーあり」というのは、広まっていると思いますよ。川崎市がストリートカルチャーを持ち上げていっている感じは、(市の)外からもちゃんと見えていると思います。例えば、渋谷とか原宿のカルチャーというのは、小さいながらも世界への発信力がある、それまでは渋谷・原宿のデザイナーたちが海

外

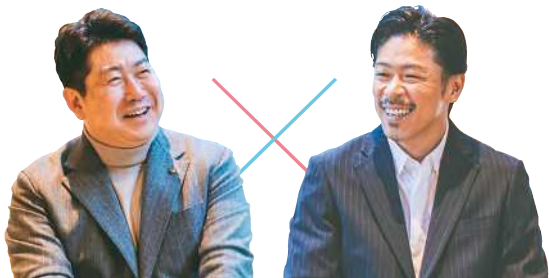


「多様性を認めるまちだからこそ、カルチャーを伝え続けていくまちに」  
「もっと川崎を知りたい。体感して、楽しんで、それを発信したい」

川崎市長 福田紀彦

ふくだ のりひこ

1972年生まれ。川崎市立長沢小学校、川崎市立長沢中学校卒業後、選考。米国アトラランタマッキントッシュハイスクール卒業。米国フアマン大学政治学専攻卒業。神奈川県議会議員、神奈川県知事秘書、早稲田大学マニフェスト研究所研究員などを経て、2013年川崎市長に就任する。2021年10月に再選を果たし、3期目。宮前区在住。



俳優 松本利夫

まつもと としお

1975年生まれ。川崎市立子母口小学校、川崎市立東境中学校、神奈川県立麻生高等学校卒業。16歳からダンスを始め、2001年からEXILEのメンバーとして活躍。俳優としても舞台や映画、テレビドラマなどで幅広く活躍している。社会的活動にも熱心に取り組み、東京2020オリンピックでは聖火ランナーを務めた。

川崎愛に満ちた動画企画 「川崎利夫」



1回目の動画配信では川崎大師を訪問



市の名産品をレビューした回では、「実家で食べた」と懐かしむ場面も



市民文化大使就任会見の様子も動画配信されている

松本さんが川崎の魅力を紹介する動画企画「川崎利夫」の動画コンテンツは50本以上。動画配信サイト「YouTube」で配信されています

撮影協力 ホテル緑道・緑道食堂



江戸時代、東海道五十三次の二番目の宿場町である川崎宿から稲毛神社に向かう参道だった場所にあるホテル。「地域の暮らしと旅人を結ぶ、暮らしの参道」がコンセプト

## 世界と川崎をつなぐ多摩川スカイブリッジ

川崎から羽田空港がある対岸まで徒歩8分——。川崎区にある殿町国際戦略拠点「キング スカイフロント」と羽田空港の「HANEDA GLOBAL WINGS」(東京都大田区)をつなぐ新たな橋「多摩川スカイブリッジ」が2022年3月、開通しました。長さは約675mで車、自転車、徒歩で通行できます。羽田空港と、多摩川両岸エリアが一体的に整備されることで、世界中からのアクセス利便性が向上。日本の国際競争力を高め、この拠点から研究開発・新産業を推進し、グローバルビジネスを創出することが期待されています。



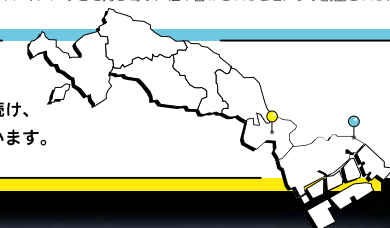
橋には歩行者が楽しめるように、約30mの間隔で周辺の生き物等を紹介するサインプレートを設置

### キング スカイフロント



「キング スカイフロント」は、「Kawasaki INnovation Gateway」の頭文字と「殿町」に由来した「King」と、多摩川対岸の羽田空港から世界につながる拠点であるスカイフロント (SkyFront) から名付けられました。

※オープンイノベーション…異分野が持つ技術やアイデアなどを持ち寄り、組み合わせられることにより創出される、革新的な発明や発見



2024年に誕生から100年を迎える川崎市は今、先端産業都市として成長し続け、イノベーション拠点としても注目されています。

世界が近づく川崎 >>>

## KAWASAKI+INNOVATION

>>> 未来を創る川崎

## 国内初稼働の量子コンピューター



IBM Quantum System Oneの内部は量子状態維持のため絶対零度に近い極低温で冷却されている

**国**内初となるゲート型商用量子コンピューターが2021年7月、「新川崎・創造のもり」(幸区)で稼働しました。今まで解けなかった問題の解決につながると思われる量子コンピューターは、将来の産業競争力を左右するだけでなく、気候変動やパンデミックなど、地球規模の課題解決に向けても、大きな期待と注目を集めています。設置されたのは、IBMが開発し、東京大学が使用权を占有する量子ゲート式の汎用タイプ。世界中で競争が激化する中、アジアでは初めての設置となり、「Kawasaki」(IBM Quantum System Oneの呼称)と名付けられました。

### 新川崎・創造のもり

首都圏最大級のイノベーション拠点。ものづくりのまちとして発展してきた川崎市は近年、知識集約型・高付加価値型へと産業構造の転換が進み、さらなる新産業の創出を目指そうと、産官学連携による先端技術の集積拠点として整備されました。8,000㎡を超える研究スペースでは、50を超える企業などが「川崎発」のイノベーションの創出に向けてさまざまな研究開発を行っています。



量子コンピューター IBM Quantum System One「Kawasaki」

